



風は群青の空をそよぐ

鮎沢郁弥

- 1: I'll Fly
- 2: Innocent White
- 3: madrigal
- 4: 優しい歌
- 5: Le Ciel Bleu
- 6: 砂漠の人魚
- 7: 見つめていたい
- 8: Sunny Hill Lullaby
- 9: SANCTUARY
- 10: HEAVENSENT
- 11: ナルシスの花

I'll Fly

高く聳える空の天幕をひとり仰ぐ日輪草
僕の空 愛しい空 夢をはるか見続けた
どこか幻の似合う瞳でいつも答えを求めてる
そそぐ空 恋しい空 そこが僕の住む世界

I will fly

踏みしめた今生の大地を蹴り
この日こそがその時とふり向かず

I will fly

見据えた紺青の空を高く
荒ぶ風を巻かせて飛んでゆくよ I will fly

ひろげる両手を翼にかえて どこへ飛ぶか探し続け
潤む空 儂い空 汚させはしないからと

I will fly

今はただ慟哭に別れを告げ
怯むことなく天を貫け

I will fly

縛りつける牢獄を解き放て
誰がための空をゆく人となろうか I will fly

I can fly

飛んだなら足もとを見下ろすな
高みに疎まないう上を向け

I will fly

睨んだ群青の空を越えて
新しい世界へと生まれ変われると

信じるよ

InnocentWhite

朝の霧立つ海の彼方へ
僕は走るよ そう掴むように
寄せては還す 波のゆりかご
目覚めた朝はどこか光ってた

この世に舞い降りた時にはじめて
見えた景色は今も憶えてるかい

海岸線を駆けた帽子は
僕をつれて何処へ向かうの
凧いだ浜辺にのびる足跡
ふりむいた途端 分かったようさ

どれほど迷った道も そこはただ
いつも波が戯れる砂浜さ

昨日だけの昨日なんて昨日じゃないさ
数え切れない瞬間がこの世界を創ってる
明日だけの明日なんて明日じゃなくて
想いがすべて今を描くよ

真白な時のむこうへと
扉を開け 彼方を掴め

自分だけの自分なんて自分じゃないさ
気が付けば僕らは いつも手をつないでた
言葉だけの言葉なんて言葉じゃなくて
想いは伝わるよ

昨日だけの昨日なんて昨日じゃないさ
ここに今いることの証を灯したら
明日だけの明日なんて明日じゃなくて
僕らに生きる意味を照らしてる

madrigal

今も探しているものと言え
夕映えに消えた長い君の影
悲しいほどに僕らは離れて
帰る道すら分からなくなったね

何処かで時には想い出したりしますか
ふたりではしゃいだ季節には
Whole of times that I couldn't stay is still in my heart.
Yes, still in my heart.
It's like a wind that carries on blow eternity.

胸に溢れそうな花束かかえて
僕はうたう古い恋の唄を
この道をゆけばまた会える気がして
今日もひとりで荷馬車に揺られてる

何処かで時には想い出したりしますか
ふたりで語った愛の言葉
Whole of words that I couldn't say is still in my heart.
Yes, still in my heart.
It's like a rose that carries on bloom eternity.

さあ翼ひろげ風になり 君に届けマドリガル
… ルララ ルララ … 祈りをこめて

今でも大事にしまっているのです
ふたりの黄金色の想いで
A whole of love that I couldn't give you is still in my heart.
Yes, still in my heart.
It's like a star that carries on bright eternity.

さあ翼ひろげ風になり 君に届けマドリガル
… ルララ ルララ … 祈りをこめて
… ルララ ルララ … 想いよ届け

優しい歌

冷たく寒い夜があまりに長くなると
何故だかとても雲雀の声が恋しくなってくるのです

今は優しい歌が うたえない…
あまりにも壊されて うたえない…

なぐさめの祈りさえも払いのけられるほど
世界はなんて無情なものか打ちのめされてしまいます

今は優しい歌が うたえない…
あまりにも壊されて うたえない…
無くしたものは歌じゃ 帰らない…
力なんてないから 帰らない…

どんな優しい歌も 救えない…
苦難に堪える人を 救えない…
今は優しい歌が うたえない…
繕った歌なんて うたえない…

Le Ciel Bleu

さあ晴れた日は ふたりして繰り出すのさ
ちっばけなこの街を見下ろせる丘の上へ
今はまだ僕ら出来ないことばかりだけど
そよぐ南風に夏の予感がした

どこまでも伸びてく ひこうき雲
胸躍らせながら追いかけてたね

空と雲と風と その笑顔
僕は忘れはしないだろう いつまでも

見果てぬ夢が あまりにも大きすぎて
悲しみに暮れていた 何も持たない僕らは
暖め合うように寄り添って時を待てば
あの日の雨は いつか虹に変わっていた

木洩れ日に浮かんだ万華鏡に
ふたりのいる未来 見つけられるかな

空と雲と風と その笑顔
僕の一番大切なものだから

僕らを包みこむ青い空よ
ふたりの行く先を見守ってください

さあ晴れた日はふたりして繰り出そうよ
変わらないこの街を見わたせる丘の上へ
いつか時が過ぎ去って大人になったとき
今日という日が記念日になりますように

J'attendrai la lumière sous ciel bleu
Tous les jours et toute la journée
Mon avenir de la lumière dans tes yeux
C'était mon cadeaux cheri que je voulais



砂漠の人魚

薄紅の空に願うもの云わぬ人魚の夢
何故ここにはぐれたのか知る由もなく
果てもなく枯れし大地 空蟬を嘆く吐息
海原を忘れよう 故郷は海

涙して顔を臥せ
波待ちて途に暮れる
宵に謳えど悲しや
響くことなき声

流れ星こぼれ落ちて帳落ちらむ

おまえの場所など無いと 夢路を追われし人魚
さりとして水無くしては生きてゆけない

千早振る 神に乞う
空破る 雲に問う
許されじかの波間の
火影の遠きしを

捨てられて誰ぞ知るや
宵に謳えど

宵に謳えど

見つめていたい

ふと気がつけば あなたの声が I know...
忘れられなくなって
高鳴る胸に戸惑うばかり I know...
心が痛くなる

ああ どうして こんなに惹かれるの
浮かべる表情(かお)が気になるよ
ああ 想いが膨らんでゆくのは
恋を知ったからかも

I care 'bout you anytime, I think of you anywhere, I know...
Maybe I might be in love
見つめていたい いつもなんとなく I know...
心に風が吹く

ああ どうして こんなに惹かれるの
浮かべる表情が気になるよ
ああ 想いが膨らんでゆくのは
恋を知ったからかも

遠いあなたは どこでなにをしてるの
いつもいつも気になるよ
ああ あなたにこんなに惹かれるのは
恋を知ったからかな

きっと恋を知ったのだと思う

Sunny Hill Lullaby

木洩れ日の木立をぬけたら
風誘う草はらにそよぐ
ヘーゼルナッツの花がゆれ
どこかで夏が生まれた

「つかまえてごらん」と駆けだす
うしろ姿に映える光
鳥たちは太陽にじゃれて
キミはそばで笑ってた

キミはそばで笑ってた

いつもいつだって信じ続けた
僕には翼があるって
苦いあやまち 心に伏せて
とべると思ってたんだ

いつかいつの日か祈りは届き
辿りつけるはずだった
ひきかえにしたものが多すぎて
今は何もかも無くした

亜麻色の時の中
そこに居られるだけで
誰よりも強くなれる 楽園に身をうずめて
かぞえ歌を口ずさめば きっと明日は晴れるよ

いついつまでも淡い風の中
漂っていられて
甘いまぼろし追いかけながら
暮れゆく日に袖を振る

いつもいつだって信じ続けた
僕には翼があるって
疑いもせず月日は流れた
だから今日の日はおやすみ

また風が誘うその日まで
今は静かにおやすみ

SANCTUARY

いつだって僕は吹きつける風の中
漂って確かな明日を願ってる
あやふやな現実にかじりだしたくなるけど
本当は自分が誰かも知らない

揺られ続けたまま眺めた 地図はまだこの胸に

ありふれた理屈で閉じ込めてしまわなくて
大人になるって事は そんな意味じゃない
理解ってるふりして話合わせるだけなら
千年経っても友達になれないね

僕の言葉が異国の言葉にきこえるの？
変わっていったのはあなたさ
捨ててしまったのは僕達じゃないのさ

塞がれた時も 届かない時も
聖域は汚さないと誓おう
We always ask for sanctuary
where's no anxiety, no contempt.
真実を胸に抱いてゆこう

いつだって いつだって 冷たく 吹き抜ける風の中を
さまよって さまよって 手探りばかり
未だ見果てぬ 僕達だけの世界

塞がれた時も 届かない時も
聖域は汚さないと誓おう
We always ask for sanctuary
where's no anxiety, no contempt.
真実はこの胸に

消えそうな時も 泣きたくなる時も
その汚れた視線を向けなくて
We always ask for sanctuary
where's no anxiety, no contempt.
真実を胸に抱いてゆこう

帆をあげて漕ぎ出せ あの海へ
加速して 止まらないスピードで

HEAVENSENT

尊き人よ どうかもう全て赦してあげましょう
傷つくことも 泣くことも 洗い流すように
重い荷物をこれまで背負い続けてきたのだから
誰ひとり責めはしない ああ 尊き人よ

冬を越えて咲く白い花の音が
春を願う心に届く
やがて草木が芽吹く日が来るから
それまでただ信じなさいと

気高さ人よ どうかもう全て放してあげましょう
憎しみも 悲しみも 空に還すように
長い道のりをこれまで歩き続けてきたのだから
わかるでしょう 刻まれた過ちの痛みを

数えきれないほどの笑顔たちが
灯し火の向こうで揺れている
今も見守りながら包んでくれる
それでも ただ愛しなさいと

Join us, Join us. 追われ彷徨う同じ仲間よ
手を取って忘却の故郷へ帰ろう

Precious, Precious. なんと強き心でしょうか
誤えよう その力で積み上げた奇蹟を
Hallelujah!

いつの日も導きが共に在りますように

Angelus, Angelus. どこかで今 夢が産まれて
産声がまた季節を紡ぎ始めれば

Belivers, Belivers. 受難に忍ぶ時代は終わった
与えよう 限りない救いをその胸に
Hallelujah!

奇蹟を見る人よ あなたが赦すなら
世界もあなたを赦すでしょう
心を縛りつける鎖を裁ち切って
故郷へ帰ろう

ナルシスの花

夕べ泣いていた遅咲きの花は
今はもう力尽き
水辺に身体を静かに横たえ
夜露に濡れている

恋慕う事は罪でしょうか
見ても見果てぬ夢と知っていても
ナルシスの花が笑う頃は
どんな景色がここに現れるのですか

茨の迷路の先にある家は
黄泉への入り口
いつれは僕も この客になる
それまでは唄うから

愛を求めても かすんでゆく
儂いまま終わってゆく運命(さだめ)も
タナトスの庭に招かれれば
何もかもが尊いものに見えます

昨日笑っていた微かな面影も
ふとした寂しさに黄昏れたとて

それでも人は願ひ続け
確かな現実をひた望むから
ナルシスの花は枯れる前に
ひとひら花びらを落としてゆきました



Produced by Ayusawa Ikuya



風は群青の空をそよぐ

鮎沢郁弥